

活動実績報告書

令和3年12月8日

登録番号 20210886

氏名 安達 和美

1. 活動状況 平成31年4月 ～ 令和3年7月

① 活動の概要

県東部の1市4町、林業事業者、及び県（事務局）による千代川流域林業成長産業化推進協議会（以下「協議会」と略）の構想実現に向け、人材確保・育成を支援するため、3つの活動を行った。

ア. フォーラムの実施

イ. パンフレット作製及び活用

ウ. 管内の農林高校生の実習支援

② 当該活動を挙げた理由

協議会は素材生産量を10万 m^3 （H29）から20万 m^3 （R4）に倍増させる目標を掲げ、4つの重点プロジェクトを行うことにした（1. 新たな森林管理システム構築、2. 主伐再造林推進、3. 木材利用推進、4. 人材確保・育成）。人材確保・育成プロジェクトのエキスパートは協議会に不在であり、当該プロジェクトのコーディネーター役として活動した。

③ 当該活動における立場と役割

コーディネーター役として、「構想の作成」、「合意形成」及び「構想の実現」を支援した。

ア. フォーラムの実施

県・市町・林業事業者・関係機関との調整、企画・提案、進行、広報、総括。

イ. パンフレット作製及び活用

掲載内容の企画・提案、林業事業者との調整・取材、編集・とりまとめ、広報。

ウ. 管内の農林高校生の実習支援

林業事業者との企画・連携、関係機関との調整、講師。

④ 活動上発生した課題及び問題点及びそれへの具体的対応策

（課題及び問題点）

- 1 市町の担当者は、林業事業者との接点はあるにも林業に関する知識や経験が浅いため、人材確保・育成の方針（ビジョン）設定にとまどっている。
- 2 林業事業者は、慢性的に人材確保に苦慮しているにも関わらずハローワークに求人票を出して待つだけの姿勢に終始しており、自社のPRや林業の仕事についてのさらなる情報発信が望まれる。
- 3 林業事業者には普通科高校や大学の卒業生も存在するが、これらの学校に対するアプローチ（人材確保に向けた林業の魅力発信・関心を高める働きかけ）がほとんど行われていない。
- 4 当該農林高校は県内唯一の森林科学科を有しているが、授業の中で林業現場に接する機会が限定され、実践的な技術に触れる機会が望まれている。

（具体的対応策）

ア. フォーラムの実施

- 1 大学生等の若い世代の参加を促すため、大学と連携してフォーラムを開催することを提案し、実現に向けて大学キャンパス内の講堂や広場等の利用を図った。
- 2 協議会の担当者（以下「メンバー」と略）全員に対し、林業に対するイメージや人材確保・育成へのアイデア出しを促し、その結果を以下の企画に集約した。
 - (1) 林業事業者によるスピーチリレー（自社PRや人材確保・育成への工夫等を発表）
 - (2) 林業による起死回生に挑戦する村の取組についての講演
 - (3) ワカモノ会議（林業就業者、林業起業者、森林施業プランナー、行政、製材会社の各若手による地域づくり・山づくり・人づくりをテーマにした座談会）
 - (4) 木育（県産材で出来たおもちゃや遊具、協議会自作の林業トランプ等で自由に遊べるエリア等）
 - (5) 防護服等の展示・試着会、高性能林業機械・ドローン実演、原木椎茸植菌、薪サウナ体験等

(6) 仕事紹介（林業就業に向けた支援事業、林業現場の紹介、市町の移住定住情報施策等）

各企画にはメンバーを3～4名配置し、林業に馴染みが少ない市町担当者は林業事業体又は県との組み合わせとした。

- 3 (1)は協議会内外の事業体に呼びかけて参加を促し、仕事や林業への思いをスピーチにまとめる経験を通し、自発的に発信する経験と自信を積んでいただくことを意識した。
- 4 (2)は山に囲まれた地域で林業・木材利用に生き残りの命運をかけた村の挑戦について、中心的活動を行う起業家に語っていただき、林業の可能性や山を活かすヒントを来場者に発信した。
- 5 (3)は、大学教授をコーディネーターとして迎え、登壇者から林業・木材産業に就職した理由等を聞き取りして全員で共有しておき、本番で話のキャッチボールが出来るよう準備した。広域的な視点で来場者に発信するという目的を全員で共有した。
- 6 (4)～(6)の企画により、一般市民等に対しても林業の役割や仕事、最新の取り組みや森の恵み等、森林・林業の可能性や楽しさ、面白さを発信できるよう、会場配置に至るまで意識した。

イ. パンフレット作製及び活用

- 1 協議会内外の9つの林業事業体の計11名の若手就業者の仕事現場を取材し、仕事の流れ、喜びを感じるやりがいやメッセージ等を盛り込んだ顔写真入りのパンフレットを作製した。
- 2 県HPに掲載するとともに計2,000部印刷し、協議会(1000部)、林業事業体(200部)、高校・大学(300部)、林業大学校(50部)、ハローワーク・移住定住機構・就業ガイダンス(200部)、公立図書館(100部)等、広く一般の方に情報を届けることを意識して配布した。
- 3 普通科、建築系、園芸系、体育系の計5高校の校長やキャリア担当者を訪問し、就職を控えた高校生の参考になるよう就業条件等も含め、パンフレットを活用して林業の仕事を紹介した。
- 4 大学地域学部の講義を1コマ担当し、大学生に対して国内の森林の状況や山と人とのつながり、木材利用や最新の状況等も含め、林業という仕事をパンフレットも活用して紹介した。林業に関わる公務員、森林施業(経営)プランナー等の現場を動かす仕事、現場を支える仕事も紹介した。

ウ. 農林高校生の実習

- 1 協議会の林業事業体と実習内容を検討し、植栽から保育、収穫という林業の流れを意識した内容とした。高校の林業関係の授業進度を考慮して日程を調整し、準備や当日進行、講師等を分担した。
- 2 農林高校生のインターン先として、これまで接点のなかった森林組合(協議会員)を紹介し、インターン希望者受け入れに向けて合意形成を図った。

⑤ 活動による成果で残された課題及び今後の改善策

人材育成・確保プロジェクトにおいては、人材を確保する側のみではなく、高校生や大学生等若い世代とも連携し、人材側の目線も取り入れながら構想を作成していくことが必要である。

2. 研修の受講状況

研修名 森林経営管理制度の実務研修 令和元年7月

(実施主体) 林野庁

研修名 県職員森林整備事業等監督業務スキルアップ研修 令和2年10月

(実施主体) 林野庁

研修名 林業労働安全推進対策のうち林業労働災害撲滅研修 令和2年10月

(実施主体) (株)森林環境リアライズ、(一社)林業技能教育研究所

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

○研修の企画、運営又は指導者、講師としての参加

- ・管内の農林高校林業実習 講師 平成31年7月～令和元年12月
- ・林業事業体の社内安全会議 講師 令和2年～令和3年
- ・管内の大学地域学部3年生社会的起業論(林業) 講師 令和3年7月

○シンポジウム等での発表

- ・中四国ブロックシンポジウム発表(テーマ:試験研究機関と連携した林地災害リスクの軽減に向けた作業道の開設・管理指導の取組) 令和2年8月

○各種研究会、シンポジウム発表等への指導

農林水産祭参加「全国経営推奨行事」参加申込書作成指導 令和3年2月